

出題分析		
試験時間 90 分	配点 60 点	大問数 7 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】 大問数は昨年の 6 題から 7 題に増加した。7 題の内訳は、長文読解問題が 2 題 (I・II)、文法・語法問題が 1 題 (III)、比較的短いテキストの空所補充問題が 2 題 (IV・V)、英作文問題が 2 題 (VI・VII) となっている。長文読解問題は例年に比べて読みやすい内容で、各々の設問において判別困難な選択肢は少なかった。英作文問題では、2 つの図表を見て自分の考えを述べるという問題が昨年出題されていたが、今年は与えられた文の論理的な誤りを説明する問題と、与えられたテーマについて自分の意見を述べる問題であった。文章量・問題量は昨年より大きく変化はなく、90 分という試験時間に対する厳しさは例年通り変わっていないと言える。問題全体を通して、文章をしっかりと読み込み、要領よく設問を処理していく必要がある。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (スペイン語の言葉に宿る感情や記憶)	(1) 本文の内容について正しくない答えを選ぶ問題、(2) 本文中の表現についての意味理解を問う問題、(3) 本文の要旨を表す選択肢を選ぶ問題、(4) 同義表現選択問題が出題された。文章量は昨年よりもやや減少した。本文については、バイリンガルの筆者が言語を通じて体験した内容を綴った文章で、文中の比喩的な表現を読み取ることがやや難しかったと思われるが、選択肢は判別しやすいものが多かった。	標準
II	長文読解問題 (ハンセン病小史)	(1) 内容不一致文を 6 つ選択する問題、(2) 本文に基づく問いの答えを選択する問題、(3) 空所補充問題、(4) 同義表現選択問題、(5) 強勢のある母音を判別する問題が出題された。例年通り選択肢の吟味と本文の正確な内容理解が求められるが、本文は読みやすく、また全体として選択肢の判別はしやすい問題が多かったため、時間をかけずに解きたい大問であった。	標準
III	短文誤箇所指摘問題	文法・語法的に誤りのある箇所を選択する問題。下線が引かれている箇所はそれぞれ 4 か所で、すべて正しい場合もある。解答の根拠となる誤箇所自体は標準レベルの文法・語法の知識で対応できるものが多かったため、確実に得点したい問題であった。	やや易

IV	空所補充問題	11 行の英文中の空所に入る語を選ぶ問題が 3 問。基本的な語句を問う問題が多く、確実に得点したい問題であった。	やや易
V	空所補充問題	与えられた表と、それに関する 9 行の英文に 6 か所の空所が与えられている問題。表の読み取りは難しいものではなく、英文と選択肢の語句も標準的なレベルであったため、比較的得点は容易であったと思われる。	標準
VI	自由英作文問題	与えられた 2 つの短い文の論理的な誤りを説明する問題で、例年にはなかった新しい出題の形式であった。特に(1)の割合に関する文は、英語で説明するのはやや難しかったと思われる。解答欄はそれぞれ 3 行ずつ与えられている。	標準
VII	自由英作文問題	昨年は 2 つの図表を見て自分の考えを述べる問題であったが、今年は与えられたテーマについて自分の考えを述べる問題であった。「大学生としてどのようなボランティア活動に参加したいか」というテーマが与えられ、比較的書きやすい内容であったため、得点源になった問題であったと思われる。解答欄は昨年と同じく 9 行与えられている。	標準

合格のための学習法

長文読解問題は選択肢の英文も含めると語数が多く、かなりの分量を速く読まなければならない。しかし、内容について細かく問う設問もあるので、速く読むと言っても飛ばし読みは禁物である。テキストや模試を通じて様々なジャンルの英文に接し、長文を読むことに地道に慣れていってほしい。文法問題は知識が曖昧だと得点に結びつきにくいので、普段から正解・不正解の根拠を明らかにしながら解くことが重要である。英作文は早くから対策を始めるのが望ましい。賛否、主張、理由などを述べるための必要最低限の文の書き方はマスターしておき、その年の出題に合わせて応用できるようにしよう。